

J-STAGE NEWS

No. 49

3月24日、日本発プレプリントサーバ

ジェイカイブ

「Jxiv」始動へ

<https://doi.org/10.34344/jstagenews.2022.49.1>
©2022 Japan Science and Technology Agency



■日本発のプレプリントサーバ「Jxiv」

ジャーナルに投稿する前あるいは投稿された場合でも査読されるまでの研究論文をプレプリントと呼びます。このプレプリントを受け付け、公開するサーバをプレプリントサーバといいます。

今から約1年前に発行されたJ-STAGE News No.45 (<https://doi.org/10.34344/jstagenews.2020.45.1>)においてJSTにてプレプリントサーバ構築の検討を進めていることをお伝えしましたが、今号ではプレプリントサーバのリリース予定をお伝えいたします。

プレプリントサーバの名称は「Jxiv」となりました。「ジェイカイブ」と読みます。「Jxiv」は2022年3月24日にリリース予定です。

J-STAGE上でジャーナルを発行している利用機関の皆様には、すでに2021年11月～2022年1月に行った説明会でもお伝えしましたが、プレプリントを貴発行誌においてどう扱うか、に関する議論を行っていただきたいと思います。その結果を投稿規程に反映いただきプレプリントを貴発行誌の発展のために活かしていただきたいと思います。すでに海外では商業出版社によるプレプリントサーバの立ち上げとジャーナルとの連動の動きが盛んです。貴発行誌においても可能であればジャーナル投稿者に向けてJSTのプレプリントサーバへの投稿を推奨していただければ幸いです。

■学術情報の新しい流通ツールとして

2019年末ごろから始まった新型コロナウイルス感染症の全世界的な感染拡大を受けてプレプリントがこれまでになく注目を集めるようになりました。プレプリントサーバ上で公開された新型コロナ関連のプレプリントが撤回されたことなども一般紙で報じられるなど、これまで研究者だけで閉じていた世界がより広がりました。

また、2020年にオーストラリアの研究助成機関が、研究者がファンドを申請する際の書類にプレプリントを成果として記載することを制限する旨を発表したところ、研究者コミュニティから反発があり、最終的には昨年、撤回される事態となりました。この例はプレプリントが研究者にとってすでに重要な成果発表の場であり、無くてはならないものになっていることを示していると思います。

JSTにおいてプレプリントサーバを構築するに当たって様々な分野の学協会、研究機関の方々にヒアリングを行いました。そこで明らかになったのはプレプリントサーバという新しい学術情報流通ツールに対する態度・考え方は分野によって大きく異なる、ということでした。すでに分野別のプレプリントサーバは、物理学、化学、生物、医学、社会科学などで確立されており、そういった分野ではプレプリントサーバで成果を発表することは研究活動の流れの一部となっています。一方で分野によっては速報性を要していないといった消極的な意見や、査読を経ない情報が流通することに強い懸念が示されることも多くございました。

JSTでプレプリントサーバを構築する主な目的は以下の2つです。

- 1) 研究成果をいち早くオープンにすることにより、その成果の実用化を加速する
- 2) 日本におけるプレプリントサーバにより先取権主張の支援を行う

■研究成果の普及をより迅速に

プレプリントサーバが確立していない分野では、研究の結果、新しい知見が発見・発明されても、それが研究コミュニティ内外に広まるには学会発表やジャーナルで公開されてからとなります。学際的な分野であればそのような成果は更に普及に時間を要する可能性があります。日本独自の研究成果が、共有する手段がないために実用化が遅れてしまうことは大きな損失です。

また、言語の問題も研究成果の普及に時間を要する一因と考えられます。迅速な研究成果共有のためには日本語で発表できる場が有効である、という意見をいただいております。成果発表を英語で行うことが必須の分野もありますので、日本語、英語を問わず、また、自然科学から人文社会科学まで分野を問わないプレプリントを発表できるプレプリントサーバを構築します。

■プレプリントサーバの信頼性

一方、ヒアリングを行う中で、プレプリントの質の問題についても懸念する声をいただいております。プレプリントサー

バでは査読を行いませんので、質を担保することはできません。ただ、少しでも信頼性を向上させるため、JSTとしては、以下を行う予定です。

- ◆ 投稿できるユーザを研究者（researchmap または ORCIDのアカウント保有者）に限定する
- ◆ 投稿されたプレプリントが体裁に問題がないこと、類似度チェックで問題がないこと、明らかな倫理的・法的问题等がないこと、非科学的な論文でないこと、等の基本的なスクリーニングを行った後に公開する
- ◆ プレプリントがジャーナルに投稿され、採択・掲載された場合、プレプリントからジャーナル公開版へのリンクを表示する（著者がリンク付けを行う）

ただ、繰り返しになりますが、プレプリントは査読を行わずに公開されるものであるため、その内容は検証されていません。プレプリントの内容をあたかも検証された事実であるかのごとく取り扱うことのないよう、他のプレプリントサーバで行われているように、サイト上にて、査読前の原稿であり、その

記述内容の取扱いには慎重さが求められることを記載し注意喚起いたします。

■ JxivとJ-STAGEの関連付け

J-STAGEとの関係では、Jxivに登載されたプレプリントを容易にJ-STAGE登載誌に投稿できる仕組みも将来的に実装することを検討しています。

今回のプレプリントサーバ構築は日本の研究コミュニティに対する社会実験的な側面もある取り組みであると考えています。一人でも多くの研究者の方に知っていただき、投稿いただきたいと思います。「Jxiv」を閲覧・活用いただき、日本の研究開発の活性化に資することができれば幸いに存じます。お気づきのことなどございましたら下記アドレスまでご遠慮なくお寄せください。

お問い合わせ：

JST（科学技術振興機構）情報基盤事業部

プレプリント担当

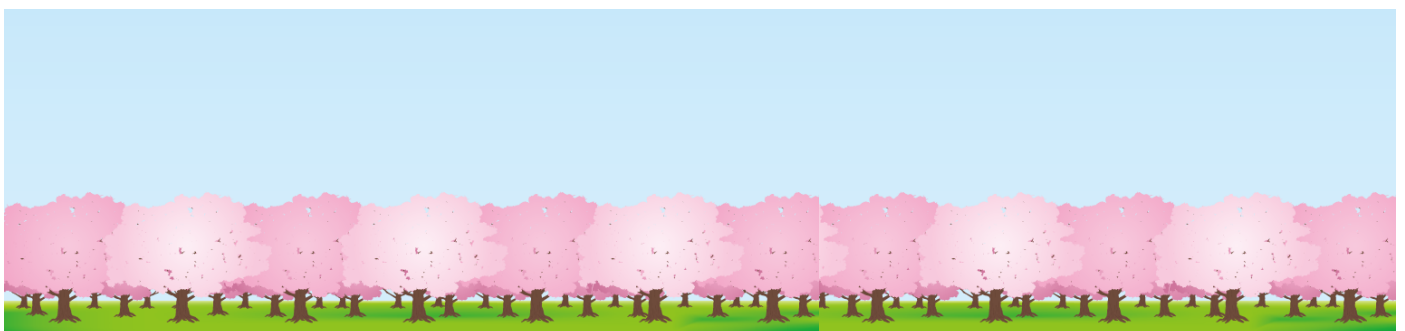
メールアドレス：preprint@jst.go.jp

※本記事とあわせて、こちらをご覧ください。

科学技術振興機構報 第1551号 令和4年3月11日

「JSTのプレプリントサーバー「Jxiv（ジェイカイク）」の運用開始～日本で初めての本格的なプレプリントサーバー～」

<https://www.jst.go.jp/pr/info/info1551/pdf/info1551.pdf>



日本発の プレプリントサーバ

Jxiv

[ジェイカイク]

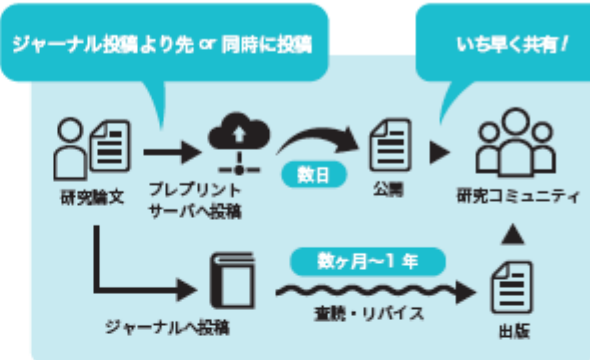


Jxiv (ジェイカイク) は、未発表の査読前論文 (プレプリント) をオープンアクセスで公開する、日本で初めての本格的なプレプリントサーバです。

プレプリントの公開で、研究が加速する

論文を、ジャーナルへの投稿前あるいは投稿と同時にプレプリントとして公開することで、査読・リバイスを経てジャーナルから出版されるまでの期間にも、自身の研究成果をいち早く公表できます。これにより、研究コミュニティからのフィードバックのサイクルが早まり、プレプリント投稿者自身の研究の加速だけでなく、研究コミュニティ全体の活性化が期待できます。

Jxivは、研究論文の迅速な公開と共有により、研究成果に関する先取権獲得の支援、研究開発の加速、グローバルな学術研究への貢献や公共知の形成への寄与を目指します。



Jxivの特徴

分野ごとのプレプリントサーバがない研究分野、あるいは、日本語の論文であっても、Jxivを利用して早期に公開することができます。

対象分野 すべて (自然科学、人文・社会科学等の既存の枠組みを超えて、学際的な内容も取り扱います。)

対応言語 日本語、英語

アクセスはこちら
2022年3月下旬オープン
<https://jxiv.jstgo.jp/>



図1. Jxivフライヤー (表)

2022年3月下旬オープン
Jxiv アクセスはこちら ▶

<https://jxiv.jst.go.jp/>

Q Jxiv ジェイカイク



Jxiv の使い方

1



投稿用アカウントを作成・ログイン

Jxiv ヘブプレプリントを投稿するには、研究者 ID (researchmap ID または ORCID ID) が必要です。

2



原稿をアップロード

- 投稿に費用はかかりません。
- 本文は PDF 形式での投稿を必須とします。必要に応じて補足データの添付も可能です。

3



サーバ管理者がチェック

- 投稿されたすべての原稿に対し、公開前に体裁や倫理的・法的リスク等に関する基本的なチェックを行います。
- 査読とは異なり、論理の整合性、内容の信憑性、データの信頼性等を確認することはありません。
- 編集・校正・組版等は行わず、投稿された内容をそのまま公開します。

4



オープンアクセスで公開

- 公開されたプレプリントには DOI が付与されます。
- 閲覧は無料で、アカウントの取得等は不要です。
- プレプリントは著者が定めた条件の下で二次利用（複製、転載等）が可能です。
- Jxiv に公開されたプレプリントについて、JST はその内容全般を承認・保証するものではありません。

5



最新の状態に更新

- 公開されたプレプリントは、ジャーナルに受理されるまでは新しい版の追加公開が可能です。
- 論文がジャーナルから出版された場合、ジャーナル版へのリンクを追記いただきます。
- 一度公開されたプレプリントは半永久的に公開され、ジャーナル版の出版後も削除や差し替え等は行えません。

お問い合わせ 国立研究開発法人科学技術振興機構
情報基盤事業部 Jxiv 担当
メール：preprint@jst.go.jp



図2. Jxivフライヤー（裏）



<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>

◆JST公式Twitter (@JST_info)

JSTからのプレスリリース・募集案内・イベント情報などをお届けします。

https://twitter.com/JST_info

◆J-STAGE公式Twitter (@jstage_ej)

J-STAGEのメンテナンスやイベントに関する情報などをお届けします。

https://twitter.com/jstage_ej

ぜひ、フォローしてください！

J-STAGEニュース No.49 2022年3月23日発行

編集発行：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

情報基盤事業部 研究成果情報グループ

〒102-8666

東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ

E-MAIL：contact@jstage.jst.go.jp

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>

©2022 Japan Science and Technology Agency